

ぶんきょうくしょうがいしゃちいきじりつしえんきょうぎかい
文京区障害者地域自立支援協議会

れいわねんど だい かいしょうがいとうじしやぶかい ようてんきろく
令和5年度 第3回障害当事者部会 要点記録

【日時】令和6年2月20日(火) 14時～15時30分

【場所】文京シビックセンター3階 障害者会館

【出席者】 高山 直樹 (自立支援協議会 会長)

志村 健一 (自立支援協議会 副会長)

永野 栄一郎 部会長 (知的障害)

竹間 誠次 委員 (知的障害)

河野 孝志 委員 (身体障害)

柳澤 由美子 委員 (精神障害)

吉田 由紀子 委員 (身体障害)

【欠席者】 中山 雅美 委員 (精神障害)

橋本 淳一 委員 (障害福祉課課長)

【補助人】 鈴木 寛樹氏 (永野部会長補助人)、松下 功一氏 (竹間委員補助人)

【事務局】 關、河井、林 (文京区障害者基幹相談支援センター)

【事務局より】

・出欠確認

・傍聴及び会議内容公開について確認

・記録のため、会議内容録音と写真撮影についての確認

・資料確認

1. 開会挨拶

自立支援協議会副会長

2. 議題

(1) 今年度の振り返りについて

事務局より説明：(資料第1号)令和5年度文京区自立支援協議会当事者部会活動報告

スライド資料を配布。

<意見・感想>

● 他部会を傍聴して、65歳以降も移動支援が利用できることが判り、安心した。

→部会長から資料第1号をもとに全体会で活動報告してもらうことについて、総意が形成された。

(2) 発表会(自立支援協議会運営会議(親会))について

事務局より説明：(資料番号なし)全体会のチラシ

○半生を語る(一人10分×2人)

テーマとして、「サポートを受けた体験、嬉しかったことについて」

○各部会からの活動報告(各部会10分ずつ×5部会)

令和5年度当事者活動報告の原稿について紹介・確認、当日に向けてリハーサルを実施。

- 他委員にも発表時の原稿を共有してほしい。スライドと原稿が一緒になっているとより良い。
- 活動を通しての感想・意見を追加
- 論点をわけて、読み手・聞き手にも分かりやすいように原稿を修正する。

○トークセッション(25～30分)

「これまで文京区の自立支援協議会がやってきたこと、これから自立支援協議会としてどんなことをすべきか」をテーマとしたトークセッション、当事者委員は参加しての感想や意見を述べる。

今回の全体会は、当事者部会委員に自身の半生を語ってもらう、セッションを踏まえての感想・意見を述べ

る等、当事者部会が要と考えている。自立支援協議会では、障害児から切れ目のない支援ができるかど

うか、障害児から障害者、障害者から高齢者になる時にサービスが切れてしまうことがないように検討を

すすめている。令和5年度からの新しい部会(子ども支援部会)を含めて4つの部会に対して、当事者の立場

から意見を出してもらいたい。

(3)令和6年度の取組み・テーマについて

○防災について

- 備蓄、避難所でのトイレ、掲示板等でのアナウンス、避難所での支給品、二次災害、関連死、仮設住宅、住まい等について、様々な課題があることが挙げられた。

- 起震車・消火器による消火訓練をしたい。

○民生委員との連絡会、交流会

- 以前、民生委員との交流会を行なったが、障害部会のみでなく、他部会の民生委員とも交流したい。
- 民生委員からも各障害者団体の話を聞きたいという意見が挙がっている。障害の理解がより深まるのではないかと。
- 民生委員は多くの世帯を担当しているため、担当地域の中にどんな障害のある方がいるのか、把握が難しい、とくにマンションの住民等については情報が入らないという意見も挙がっている。

3.閉会の挨拶：自立支援協議会会長

皆の意見を集約すると、来年度、防災をテーマに民生委員と一緒に協議していく、障害の理解を深めていくのはどうか。

知的障害の方など避難所での集団での生活が難しい場合、大学では小さい教室を活用する方法や、

自宅やホテルで生活することを検討している。精神障害の方は、薬の確保が重要、薬剤師会と連携し、薬

を確保することできちんと内服できれば安定した生活が送れるのではないかと。福祉避難所以外の場所の

活用、社会資源の活用など、当事者部会委員の方から意見を挙げてもらうことで、文京区民、地域住民に

寄与・貢献していくことになる。

自立支援協議会の中に当事者部会を作ったのは、文京区が全国で初、文京区の取り組みは他自治体から

注目されている、世田谷・国立・港区も後に続いている。先駆的にやっていきたいので、全体会でも

当事者委員からの意見を積極的に挙げてもらいたい。